日刊 建設工業新聞

関東整備局

MCブルの操作体感

情報化施工技術で講習会

関東地方整備局は18日、千葉県船橋市の関東技術事務所船橋防災センターで情報化施工技術の講習会を開いた＝写真。日本建設機械レンタル協会、日本測量機器工業会、日本道路建設業協会（道建協）の3団体との共催。各団体から専門家を招き、マシンコントロール（MC）を導入したブルドーザー、マシンガイダンス（MG）の機能を備えたバックホウ、トータルステーション（TS）を使った出来形管理の三つの技術に関する講義と、実機を使った操作演習を実施。約40人が受講し、技術への理解を深めた。

冒頭、山元弘関東技術事務所長は「少子高齢化の進行などで重機を扱えるベテラン技術者の数が減少する中、情報化施工技術の活用は作業能率の向上に役立つ」とあいさつした。

MCブルドーザーは排土板がコンピューターで制御され、オペレーターが操作しなくても、ならす土の高さなどを自動で調節することができる。MGバックホウはアーム先端のバケットの位置などを操縦席に表示する機能を備え、搭乗者の操作を支援する。MCブルドーザーの操作演習では、日本建設機械レンタル協会が提供した重機を使い、操作のポイントが解説された。

TSを使った出来形管理については、本年度から国土交通省の直轄工事（1万立方㍍以上の掘削工など）で使用が原則化されている。同事務所の担当者は「TSの活用により、これまで3人は必要だった出来形管理の作業を1～2人に減らすことができる」と利点を説明した。

講習会は19日にも開催され、両日併せて約100人が参加する見通し。

【建設ICT】
1. 日経　2. 朝日　3. 毎日
4. 読売　5. 岐阜　6. 中日
7. 産経　8. 静岡　9. 伊勢
10. 中部経済　11. 建通　12. 日刊工業
13. 建設通信　14. 信濃毎日　15. 日本海事
⑯ 建設工業

平成25年12月19日（朝・夕）P 5